

公共交通活性化に向けた取組



【運輸部】

NO.13

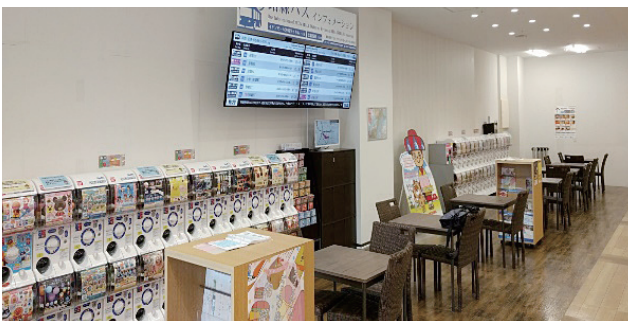
沖縄総合事務局運輸部企画室では、公共交通の利便性の向上、利用活性化を図ることにより沖縄本島内の交通渋滞緩和に繋げることを目的として、以下取組を実施しました。

※平成29年度実施

大型商業施設と連携した交通結節点の創出

イオンモール沖縄ライカム(北中城村)との連携により、液晶ディスプレイ(5カ所設置)によるバス運行リアルタイム情報(2カ国語対応)の提供、バスマップ&時刻表(5カ国語対応)の配布を行い、約4ヶ月間の実証調査を実施しました。

今後はより詳細な運行情報の提供等についての改善検討を行い、民間事業者を中心とする導入スキームを構築し、他大型商業施設や公共機関に対する導入促進を図っていきます。



液晶ディスプレイ&待合スペース

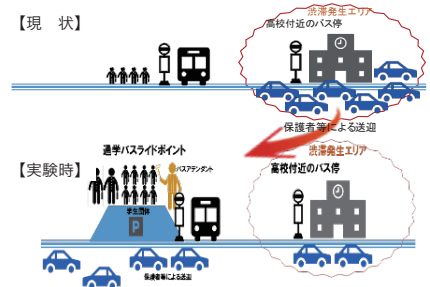


多言語対応バスマップ&時刻表

学生向け路線バス利用促進実験

那覇商業高等学校をモデル校とし、自家用車送迎による登下校をしている学生を対象とした路線バスへの転換実証実験を行いました。郊外に通学バスライドポイントを設け、自家用車送迎を学校ではなく、通学バスライドポイントへと変更を促し、実験参加者には団体割引運賃(通常運賃から2割引)を適用しました。

今後は対象高校の拡大、送迎車両の利便性の良いバスライドポイントの設定を検討します。



【実験イメージ】

公共交通活性化に向けた商業施設連携による利用促進実験

商業施設と連携しOKICAを使ってバス・モノレールで来店(専用アプリで乗降履歴を確認)した方を対象に、各商業施設(飲食店や書店など30店舗以上)などで、割引や1品サービスなど独自のサービスを実施しました。

今後は民間事業者による自立的な取組として周知・協力店舗の拡大などの活動を継続できるよう、調整を図っていきます。



【実験イメージ】